

令和8年度 宇治市乳幼児教育・保育協働研修通信

知りたい・知ってほしい研修

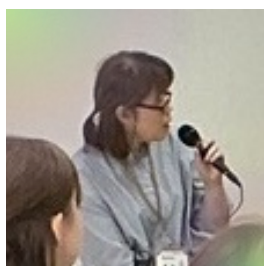
第2回開催 令和8年6月8日(月)

テーマ

「宇治市の就学前後のフォローシステムについて」

参加者内訳: 保育所(園)7名・幼稚園2名・認定こども園9名・小学校2名・療育施設3名
・宇治支援学校 地域支援センターうじ1名

報告 1



- ◆宇治市乳幼児教育・保育支援センター
- ◆保健推進課 発達支援係 発達相談員

春田 ひろみ

発達面で支援が必要な子どもとその保護者
に対する就学前のフォローシステムについて

報告 2



- ◆宇治市教育総合推進センター
学校教育課 教育指導係
指導主事

森下 健一

切れ目ない支援体制をめざす
『宇治市の就学相談』



※ この研修通信は、研修での学びを広く共有するために、研修後の参加者の振り返りシートをもとに作成・発行しています。

園(校)内研修や日々の振り返りにご活用ください。

次回の研修へのご参加もお待ちしております。

ご質問等がございましたら、下記メールアドレスまでお気軽にお問い合わせください。

nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp





発達相談員の報告から学んだこと

キーワード① 療育や支援をポジティブに伝えよう



参加者の心に残ったこと

療育 = 「こんな経験ができる」という場

参加者からは、療育に対する見方が大きく変わったという声が多く聞かれました。

- ・ 療育は「ハードルの低い、通しやすい場」
- ・ 「こういう経験があるとこんな成長が見込める」という**プラスの視点でのすすめ方**
- ・ 「足りないから療育へ」ではなく、「**こんな経験をして欲しいから**」という伝え方



実践のポイント

保護者に療育をすすめる際は、子どもの課題ばかりでなく、そこでどんな経験ができ、どう成長するのかを具体的に伝えることが大切です。

「こういう活動を通じて、お子さんのこんなところが伸びていきますよ」

このような**前向きな伝え方**で、保護者の育児不安も軽くなるのではないのでしょうか。



園校で実践してみよう

- ・ 療育先での活動内容を知り、園でも取り入れられることを検討する。
- ・ 保護者との面談時に、**子どもの「良いところ」「伸ばせること」を一緒に考える時間を作る。**
- ・ 5歳児健診や発達相談の結果を、ネガティブではなく、「**次のステップ**」として捉え直す。

キーワード② 「支援につながるハードルを下げる」仕組みづくり



参加者の心に残ったこと

「いつでも支援につながる仕組みを作っておくこと」の大切さ

多くの参加者が、支援を必要とするタイミングは人それぞれであること、そして支援を受けることへの心理的なハードルの高さに気づきました。

- ・ 保護者が1人で考え込まず、**みんなで考えていく体制**
- ・ 支援を受ける**ハードルを下げておく**ことで、いつでも支援につなぐことができる。
- ・ 相談に来た保護者が「**来てよかった!**」と思える**時間・場所・関係づくり**



実践のポイント

保育者が「**相談の入り口**」になることが重要です。

「**相談できますよ**」という答え方をすると、保護者は安心されるようです。

日頃から小さな関りを大切にし、保護者が**気軽に相談しやすい雰囲気を作る**ことで、子どもの発達や育児不安を早期に発見・対応できます。



園校で実践してみよう

- ・ 保護者との日常的な会話の中で、**子どもの様子を丁寧に伝える習慣**をつける。
- ・ 「教育相談」「発達相談」といった言葉を、**保護者にとって受け入れやすい表現で説明**する。
- ・ 園内で、気になる子どもについて**職員全体で情報共有する体制**を整える。

指導主事の報告から学んだこと

キーワード①「通級指導教室」と「特別支援学級」を正しく理解する。



参加者の心に残ったこと

「通級 = 補習の場」ではなく、「学び方を学ぶ場」

多くの参加者が「通級」という言葉は知っていても、教室の実際の内容を知らなかったと述べています。

- ・ 通級指導教室は、学習の遅れを取り戻す場ではなく、**学び方の学習の場**
- ・ 一人一人に応じた「**自立活動**」を行っている。
- ・ 子ども自身が「困り感に気付き、**どうしたらうまく生活できるか**」を学ぶ場
- ・ 気になることやできないことが全てではなく、**その子の良さをどう活かすか**を考える。



実践のポイント

支援が必要な子どもについて、つい「できないこと」に目が向きがちです。しかし、子どもの「**良いところ**」「**強み**」「**伸ばせることを**」**共有**することが、その子の可能性を大きく広げます。移行支援シートの記入や保護者との相談の際も、この視点を大切にすることで、切れ目ない支援につながります。



園校で実践してみましょう

- ・ 移行支援シートの記入時に、**子どもの「強み」と「課題」の両方を丁寧に記入**する。
- ・ 「できないこと」ではなく「**どうしたらできるようになるか**」という**視点**をもつ。
- ・ **就学相談の流れを理解**し、保護者に丁寧に説明できるようにしておく。

キーワード②「就学相談の流れと連携の大切さ」



参加者の心に残ったこと

- ・ 就学相談の流れ（いつどんなことが実施されているのか）が詳しく分かった。
- ・ 教育相談（就学相談）は各学校の就学支援委員の方にいただいていること
- ・ 切れ目のない支援体制をめざす中で、各校で保護者の皆さんと丁寧な相談を重ねてくださっていることを知った。
- ・ **就学後も続く支援体制**



実践のポイント

切れ目のない支援のためには、園と学校、そして家庭との連携が不可欠であり、特に就学に向けては、これまでの成長の記録をスムーズに引き継ぐ「**就学へのバトン**」としての**情報共有が重要**となります。



園校で実践してみましょう

- ・ 園から小学校への切れ目のない支援のために、**移行支援シートを活用**する。
- ・ 就学相談で得られた情報を、1年生の学年づくりや校内委員会で活かす。
- ・ 園と学校の連携をしっかり行い、**子どもが安心して就学できる**ようにサポートする。

グループワークから学んだこと

「参加者の気づき」をキーワード別にまとめました。



1. 「保護者との関わりの工夫」

★ 「気になる子」について、保護者にどう伝えるか…

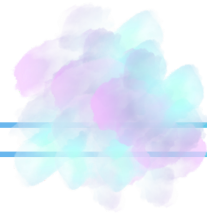
これは、どの園・校でも悩む共通の課題

「相談が必要ですか？」と聞かれた時に「相談できますよ」と答える、

「教育相談」という言葉を「相談」と言い換える、など、

小さな工夫が保護者の受け入れやすさを大きく変える。

同じ立場の先生たちの悩みや工夫を共有することで、自分たちの実践に活かせる視点が広がる。



2. 「支援のイメージ転換」

★ 支援が必要な子どもに対して、保護者が「うちの子は劣っている」と感じてしまうのは、支援の場に対するネガティブなイメージがあるからかもしれない。

「その子に合った学びの場を整える」「その子の成長を応援する場」という

前向きなイメージを、私たち関係者がもつことが大切

その姿勢が、保護者の不安を軽くし、子どもたちの自信につながる。



3. 「共通の悩みと共感力」

★ 異なる立場、異なる環境で働く先生たちが集まると、「実は同じようなことで悩んでいた」という発見がある。

この共感と共有が、孤立感を減らし、「一緒に頑張ろう」という前向きな気持ちを生み出す。

園・校の枠を超えた情報交換と相互理解が、市域全体の支援の質を高めていく。



明日からの実践で活かしたいこと

研修での学びをどう現場に落とし込むか、参加者の皆さんの実践的な意気込みをキーワード別にまとめました。

1. 「就学相談の流れを理解し、保護者との相談に活かす」

- ★ 年長クラスの担任として、様々な支援を理解し、必要に応じてつなぐ。
- ★ 移行支援シートの記入ポイントを意識して、**より具体的な情報を小学校に伝える**。

2. 「保護者をサポートする関わり方を工夫する」

- ★ 保護者が育児の不安を気軽に相談できるよう、**ハードルを下げる**。
- ★ 気になる点を伝える際も、子どもの良いところと一緒に、**ポジティブに伝える**。

3. 「子どもの強みに着目した支援を心がける」

- ★ 支援を必要とする子どもと関わる上で、「できないこと」ではなく「**どうしたらできるようになるか**」「**得意なこと**」に切り替える視点をもつ。
- ★ 療育につながるまでに、様々な支援者が関わっていることを意識する。

4. 「園・校の枠を超えた連携を大切にする」

- ★ 就学先や園との連携をしっかり行う。
- ★ 就学前のフォローシステムについて、**自分事として捉える**。

まとめ

今回の研修を通じて、多くの参加者が以下の3点を再確認していました。

1. 子どもたちの最善の利益のために、保育者・教育者・支援者が一丸となって、**その子に合った支援**を考え、**つなぎ、続けていく**ことの大切さ
2. 保護者の不安を軽くし、**前向きに子育てできるようサポート**することの重要性
3. 「できないこと」ではなく「**その子の強み**」「**その子の可能性**」に目を向けることの大切さ

明日へのヒント

5つの実践ポイント

1. 「できた！」の瞬間を大切にする：子どもの**小さな成功体験**を具体的に認め、褒める。
2. **ポジティブな言葉**を選ぶ：否定的な表現を避け、前向きな声かけを心がける。
3. 保護者との対話を深める：一方的な情報提供ではなく、**共感と共有を意識**する。
4. **強みを見つける視点**を持つ：子どもの得意なこと、好きなことに注目する。
5. **情報共有**をスムーズに：園、学校、家庭、関係機関との**連携を密**にする。